

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人たつき会

1. はじめに

■法人事業概要

事業所名	介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘
事業開始日	平成 27 年 12 月 1 日
第一種社会福祉事業	特別養護老人ホーム事業 (定員)100 名
第二種社会福祉事業	老人短期入所事業 (定員)10 名

■法人運営や介護業界を取り巻く状況

令和3年度の法人・施設運営も引き続き新型コロナウイルスの影響を受けた一年となりました。ワクチン接種が優先的に始まったものの、その業務に及ぼす負担増や不安感が解消されたわけではなく、現在でも全国の介護施設でのクラスター発生件数は高止まりを続けています。一方、およそ2年に及ぶ有事を通じ、我々介護事業者の存在意義・重要性が再認識された一年でもあったかと思っています。社会インフラとして介護従事者が”ソーシャルワーカー”と呼ばれるようになったことはその一例かと思っています。また全国の介護職員の離職率が過去最低(14.9%)※を記録し全産業の平均離職率よりも低く留まったことが報告されています。様々な処遇改善が進んだことに加え、仕事に意義を感じられていることが一因と言われています。

また、令和3年度は介護報酬改定があり、介護事業者にとって大きなルール変更が行われました。ユニット型特養の運営に16もの新たな義務が追加されたのをはじめ、「感染症や災害への対応」「地域包括ケアシステム」「自立支援・重度化防止」「介護人材の確保・介護現場の革新」「制度の安定性・持続可能性」が求められました。この内容となっている科学的介護の推進や自立支援・重度化防止については、業界において大きな変革の一步となる制度改革かと思われま

私どもも更なる発展と収益基盤の安定のためにも、この流れに的確に対応していきます。

法人としては、2拠点

目となる横浜市内での新設事業が本格的に始動しました。土地の購入、土地の開発、施工業者の選定などを経て、建築工事が着工されています。こちらも新型コロナや世界情勢の影響が少なからずありますが、そこに対応し突破策を講じていく必要があります。

”もうマスクは取ってもいいし、3密なんて考えなくていい”という状況には、まだもう少し時間がかかりそうですし、昨今の世界情勢の中、不安定な状況は続きますが、職員一同前を向いて更なる発展と社会貢献意義への高い志を持って取り組んでいく所存です。

※8/23公表「介護労働実態調査」より

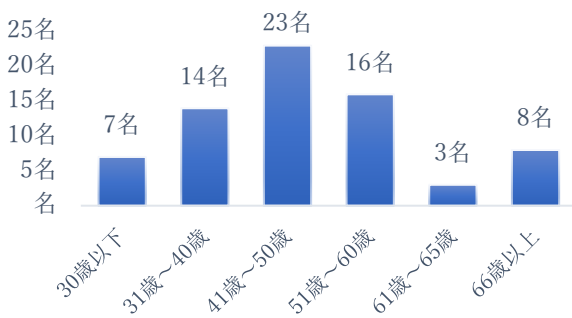
特養に課せられた16の新たな義務	
虐待防止体制整備と研修	BCPの周知と研修訓練
介護保険関連情報の活用	訓練への地域住民参加
栄養管理業務	感染症予防のための訓練
口腔衛生の管理義務	事故発生防止措置担当者設置
虐待防止の運営規定の整備	虐待防止対策委員会の設置
認知症介護基礎研修の受講	虐待防止指針の整備
セクハラ・パワハラ防止措置	虐待防止研修の実施
BCPの策定	虐待防止措置担当者設置

2. 職員状況(令和4年3月31日現在)

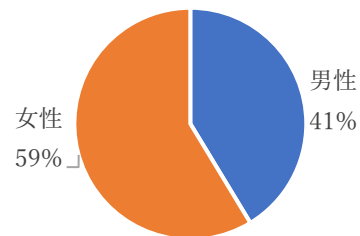
	施設長	介護支援専門員	生活相談員	管理栄養士	機能訓練指導員	看護職員	介護職員	介護補助員	事務員	環境整備	宿直員	合計
職員数	1	2	1	1	1	7	46	1	3	5	4	71

※職員数は非常勤(パート職員)を含む

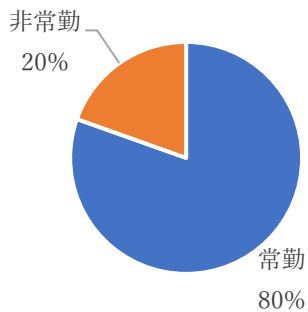
■職員年齢構成



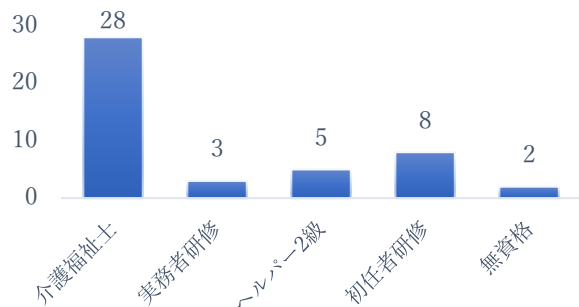
■職員男女割合



■常勤/非常勤割合(介護職員のみ)



■資格者構成(介護職員のみ)



3. 令和3年度介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

I 施設全体でPDCAサイクルを意識し入居者の日々の生活全般において質の高いサービスを提供する

介護ソフトを活用し多職種間で入居者様ごとの状態に応じたケアの向上を一体的に推進・評価していく仕組みを構築しました。こうした取り組みにより、コロナ禍において様々な制約の中でも、長期目標に対し評価測定として6割程度の達成を維持することができました。また、令和3年度介護報酬改定に対応することで、サービス提供の質向上につながりました。特に重点項目となっている自立支援・重度化防止については、新たな加算取得に取り組んでいます。算定要件は厳しい内容となりましたが、この体制を確立することで、入居者様へのサービス提供の質向上が図れたことと、更には将来的な状態の改善評価というPDCAサイクルの仕組み作りができた一年となりました。また次年度以降の自立支援やADL維持向上に向けたスタートがきれた年ともなりました。

令和2年2月から中止せざる得なかったご家族面会を、昨年からは始めたテレビ電話に加え、対面面会での機会をご提供しました。ワクチン接種や時間制限等の条件つきではありますが、感染対策を徹底した上で3回の期間を設けることができました。尚、外出自粛が必要な期間での衆院選不在者投票を施設内で実施できたことも、入居者様にとって生活の維持継続の一助になったかと思えます。

■行事／サークル活動

4月	お花見	9月	敬老会	12月	クリスマス
5月	母の日会	10月	運動会	1月	お屠蘇
6月	父の日会	10月	ハロウィン	2月	節分
7月	七夕まつり	11月	文化祭	2月	バレンタインデー
8月	夏祭り	12月	6周年祭	3月	ホワイトデー

他、感染対策が可能な習字サークル(45回/年)や料理レクリエーション(19回/年)を開催しています。

■苦情・相談受付

時期	区分	内容	申立人	対応
5月	特養	職員の介助方法が乱暴である	本人	状態を考え手早く行ったことを誤解させたことに謝罪
6月	特養	他者の計画書を誤って郵送する	家族	当該者への謝罪と作業日程に余裕をもたせる。
7月	特養	入院時持参薬について連絡連携不足	家族	連絡調整不足を謝罪する。
9月	特養	発送物の封入間違い	家族	謝罪をする。郵送物全てを二重で確認する
11月	ショート	職員の言葉遣いについて	本人	個人的な愚痴を業務中に発言しないよう教育。
12月	特養	退院連絡がないことについて	家族	退院連絡は病院から直接あることを説明する。
1月	特養	職員の対応について	本人	誤解を説明し日頃のコミュニケーションを強化する。
3月	特養	転倒事故について	家族	現実的な対応策を協議する。

Ⅱ 職員資質の向上を目指すとともに人材育成に取り組み組織力の強化につなげる

施設内で毎月行っているスキルアップ研修では、動画収録をしてそれを全職員が視聴することで周知を図ることを目的とする研修のほかに、専門家による新制度に対応した内容を受講できる研修環境を整備しました。併せて受講後にチェックテストを実施することで知識の定着と記憶の強化を図りました。外部研修では、オンライン化が定着し従来のような長時間を要する集中セミナーだけでなく、業務中に短時間での受講が可能な自己学習型の研修を活用することで知識やスキル向上の機会が増えたことはコロナ禍における大きな変化だったと思われます。

■施設内研修(スキルアップ研修)の開催

4月	褥瘡予防及び疾病予防	10月	倫理及び法令遵守／BCP(業務継続計画)
5月	感染症及び食中毒の予防及びまん延防止	11月	感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止
6月	非常災害対策訓練	12月	非常災害対策
7月	身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止	1月	身体拘束等の適正化及び高齢者虐待防止

8月	認知症及び認知症ケア	2月	メンタルヘルス
9月	事故発生の防止	3月	事故発生防止

■主なオンラインセミナーへの参加

「経口摂取と栄養管理」(4月)／「介護報酬改定の最前線」(6月)／「安全対策体制加算対応研修」(7月)／「ADL維持加算対応オンライン研修」(7月)／「感染症 web セミナー介護福祉施設編」(8月)／「特定給食施設全体講習会」(9月)／「電子帳簿保存法のポイントと社会福祉法人に与える影響」(12月)／「高齢者の食べる機能と食形態の対応」(2月)／「改めて認知症を知る～認知症の正しい知識と適切な栄養管理を目指して～」(2月)／「福祉施設内感染を広げないための効果的な対策」(2月)／「高齢者福祉施設等における基本的な感染対策」(3月)

その他、ミニセミナーへの各自での受講を認めており多数のセミナーに参加しています。

III 離職防止・定着促進を図る観点から安全管理と働きやすい職場環境整備の充実を図る

幅広い職員の意見を反映して安全な作業に係る整備を進めており、作業中の事故防止や間接業務の負担削減に取り組んでいます。今年度も全国健康保険協会様より健康優良企業として星5つの認定を頂いております。こうした取り組みの中、法人として設立以来離職数を一番低く抑えることができました。また業務継続に向け協力医療機関との調整のもと、効率的に職員のコロナワクチン接種を進めました。しかしながら多くの職員が副反応に悩まされるワクチン接種は、施設運営にとって勤務調整などに大きな影響を及ぼしその負担に苦慮した時期がありました。尚、新卒採用活動の体制を強化拡充し令和4年度に2名の介護職員を新卒で採用することができました。

■各種会議

会議名	参加者	実施状況	主な内容
職員会議	全職員	12回/年	施設運営に関する重要事項について情報の共有／新人職員紹介／研修報告／業務上の伝達事項
運営会議	施設長／役職者／専門職	12回/年	施設運営に関する業務進捗・結果等の報告と検討事項の意思決定／問題事項の改善議論
ユニット会議	介護職員／専門職	21回/年	各ユニット単位で入居者様それぞれについて個別のケア内容情報の共有
給食会議	施設長／管理栄養士／委託業者社員	12回/年	給食委託先社員を交えて適切な食事提供に関する協議
ケアカンファレンス (サービス担当者会議)	介護支援専門員／専門職／介護職員	113件/年	個々のよりよいサービス提供のために情報の共有や共通理解を図る

■委員会

委員会	実施状況	令和3年度の主な取り組み
入退所判定委員会	18回/年	入所の決定及び退所の検討を行い、待機者の方の入居順位を評価した。
褥瘡対策委員会	12回/年	一人ひとりの評価に基づき、予防・悪化防止・治癒促進に取り組んだ。
感染症対策委員会	12回/年	コロナウイルスの情報収集と対策の実行、及び口腔衛生への取り組みを行う。
リスクマネジメント委員会	12回/年	介護事故の原因・対策など記録の内容共有によりリスクマネジメントに役立てた。

安全衛生委員会	12回／年	職場の定期巡視、産業医による指導強化、また健康優良企業と認定される。
身体拘束適正化委員会	6回／年	身体拘束廃止に関わる個別の検討、及び権利擁護に関する研修開催。
虐待防止検討委員会	6回／年	人権の擁護、虐待の発生を防止するための研修や指針の整備を行う。

IV 持続可能な施設運営のための経営基盤の強化に努める

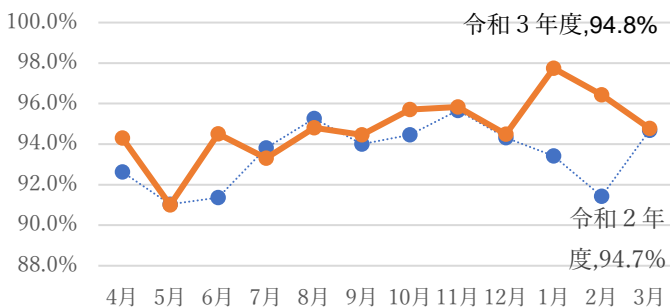
緊急事態宣言の発令や入居直前でのコロナ感染判明など予定通りの業務遂行に苦慮する時期もありましたが、感染症対策を含め体調管理に努め入院者数が減少したことで年間目標の稼働率を確保することができました。介護報酬改定により廃止された加算があったものの新設された複数の加算を算定対象とすることで収益基盤を安定させています。これらの導入にはケアの質を上げるとともに記録・評価や情報データの提出など負担が増えるため、業務の見直しを同時に取り組む必要がありました。各種補助金等を積極的に活用し感染症対策の物品購入やこれに伴う業務負担増への対応を行っています。

尚、社会情勢から消耗品や光熱費などの価格が想定以上に高騰していると同時に、経年劣化から物品の買い替え費用が多数発生しています。新規事業整備に関してもこれらに加え、国内外の異常気象なども影響し費用支出が増えていくことも予想され、今後も計画的且つ徹底した経費管理が必要であると考えております。

■稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ人数	2830名	2820名	2835名	2892名	2939名	2834名
稼働率	94.3%	91.0%	94.5%	93.3%	94.8%	94.5%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2967名	2875名	2929名	3030名	2700名	2938名
稼働率	95.7%	95.8%	94.5%	97.7%	96.4%	94.8%

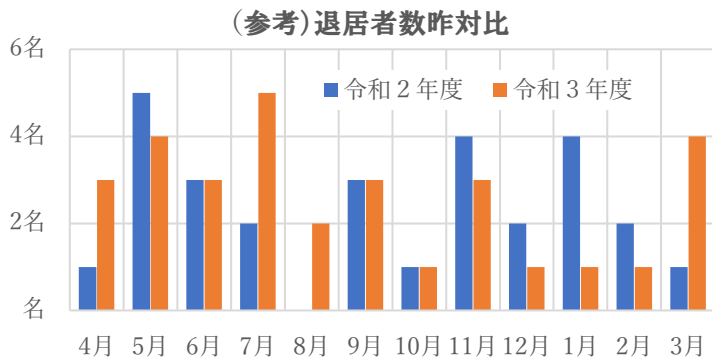
(参考)稼働率前年度比



	計	
	(R3年度)	(R2年度)
延べ人数	34589名	34136名
稼働率	94.8%	93.5%

■入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	1名	4名	4名	2名	5名	3名
退居	3名	4名	3名	5名	2名	3名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	2名	1名	4名	0名	1名	2名
退居	1名	3名	1名	1名	1名	4名



	計	
	(R3年度)	(R2年度)
入居	29名	28名
退居	31名	28名

■入札結果

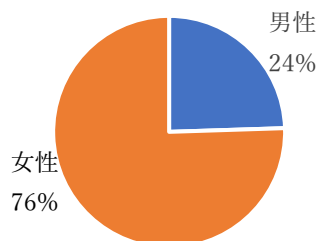
入札執行日	件名	落札者
令和3年10月7日	(仮称)介護老人福祉施設スミール荏田新築工事に伴う開発工事	小雀建設株式会社
令和4年2月4日	特別養護老人ホーム(仮称)スミール荏田新築工事(建築工事)	株式会社安藤建設
令和4年2月4日	特別養護老人ホーム(仮称)スミール荏田新築工事(設備工事)	矢口電気株式会社

V 地域とのつながりを絶やさず地域福祉の充実の一助となるよう地域に根ざした施設を目指す

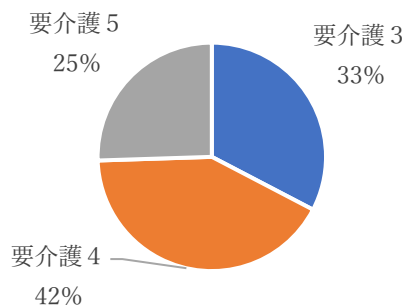
組織の安全を維持しつつ地域福祉に貢献していくことを目指し、大和市の認知症初期集中支援チーム検討委員として職員の派遣や社会福祉に対する理解促進と認知向上を目的とした大和市高齢協主催の「福祉の魅力を伝えるプロジェクト」への介護職員の参加など外部機関とも連携した諸活動を展開してまいりました。施設の災害への備えとして地域と連携した対応強化のために、非常災害訓練に自治会からの参加をいただいております。また、新規事業整備計画においては、開発・工事のために開催した地域での住民説明会を通して、地域の方々との新たな関係性の構築を進めています。

4. 介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘入居者状況(令和4年3月31日現在)

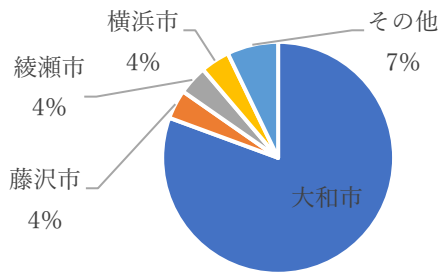
■入居者男女割合



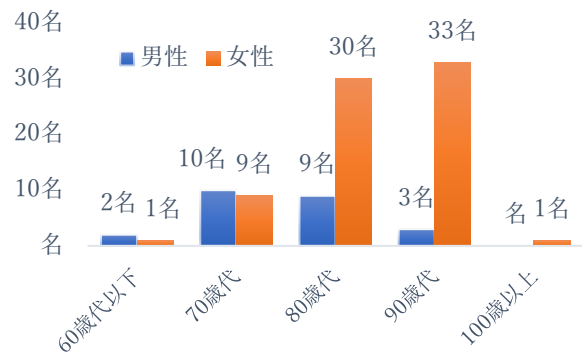
■入居者要介護度割合



■保険者別入居者割合



■入居者男女年齢別状況



5. 令和3年度短期入所生活介護スマイル桜ヶ丘事業目標実績報告

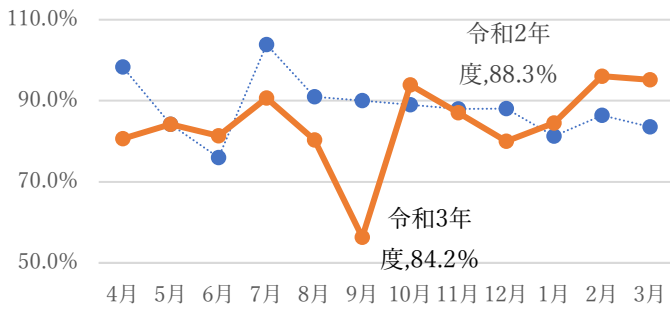
- I 利用者本人や家族の課題と意向を把握し快適に過ごしていただけるよう努める
- II 感染症対策と満足度向上の両立に努め稼働率95%を目指し適時調整しながら受け入れていく
- III 情報発信を計画的に実施し効果的な広報戦略を展開する

今年度も新型コロナによる影響を深く受けた一年となりました。上半期は引き続き利用控えの影響が残り、更に第5波と呼ばれた8月から9月にかけて利用予定者が罹患者となり利用ができない事態が多数発生したことは稼働率に深刻な影響を及ぼしました。複数のサービスを利用されている利用者にとって多方面からの感染リスクは防げず、他事業者との密な情報共有が必要となります。日々報告される状況に慎重な判断と調整をしなければならない時期でもありました。ワクチンの普及などにより経済活動が本格化していく一方、介護施設のクラスター発生は収まらず、営業休止などによる利用者の緊急的な受け入れに可能な限り対応いたしました。広報活動にも制限がともなう中、利用者には期間中の感染を防ぎ、個別的な支援を実践し、ご家族への報告を工夫するなどの効果により、定期的な利用につなげています。

■稼働状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	17名	21名	19名	22名	22名	19名
延べ人数	242名	261名	244名	281名	249名	169名
稼働率	80.7%	84.2%	81.3%	90.6%	80.3%	56.3%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	23名	23名	27名	21名	23名	26名
延べ人数	291名	261名	248名	262名	269名	295名
稼働率	93.9%	87.0%	80.0%	84.5%	96.1%	95.2%

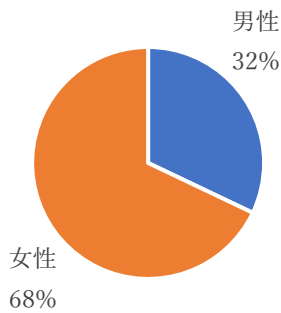
(参考)稼働率前年度比



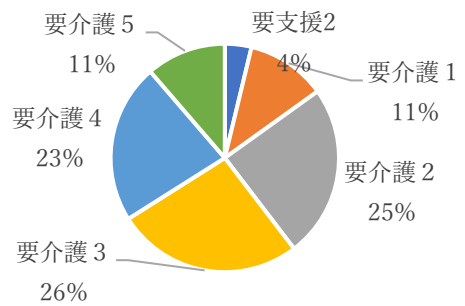
	計	
	(R3年度)	(R2年度)
実人数	53名	62名
延人数	3072名	3224名
稼働率	84.2%	88.3%

6. 短期入所生活介護スマイル桜ヶ丘利用者状況(令和3年度)

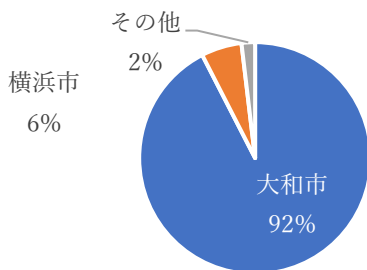
■利用者男女割合



■利用者要介護度割合



■保険者別利用者割合



■利用者年齢別状況

